

シルバー日向岬

賀正

初春残雪を
みれば

日向岬の
静けさ

を
心ゆくまで
味わおう

と
思ふ

平成六年元旦

第6号 平成6年1月1日 編集発行 社団法人日向市シルバー人材センター

〒883 日向市中町7956-9

TEL 0982(52)2200

新年を迎えて

日向市シルバー人材センター

理事長 林 賢太郎



新年あけましておめでと
うございます。

会員の皆様には益々ご健勝で、
清々しい初春をお迎えのことと
お慶び申し上げます。

私たちのシルバー人材センター
も、発足以来早くも六年目を迎
えました。設立された平成元年
の当初は、会員数二〇五名でし
たが、この会員を確保するの
も大変苦労したし、センター運
営の将来にも一抹の不安を抱い
ての発足だったことが思い出さ
れます。

それが六年目の今日では、県
内のシルバー人材センターでは
優等生の部に入ると評価される
までに成長して参りました。

現在の会員数約三九〇名、契
約事業は月額約一千万円を上廻
わるまでになりました。

このことは地域住民皆様の深
いご理解や、国、県、市ご当局

をはじめ、関係機関のご支援に
よることもありますが、何と云っ
ても理事の皆様、事務局職員、
そして班長さん、会員の皆様が
一体となって努力した成果だと
思います。

会員の皆様が、自分たちのシ
ルバー人材センターだと思い、
その熱意で、誠実、親切、丁寧、
責任のシルバー精神での仕事が
高く評価され、信頼を得た成果
であると思えます。今後共人材
センターの一層の充実、発展を
期するためには、継続しての課
題である「会員の確保」、「安全
就業」、「就業拡大」等を会員の
皆様と共に考え、共に解決して
いくことが大切な事だろうと思
います。

又地域内で人材センターの担
う役割はますます重要となって
参ります。そこで会員一人ひと
りが自分たちの人材センターで
あることを再認識し、自主、自
立、共働、共助の理念のもとに
会員の力を結集して、真に住民
に愛され、信頼される人材セン
ターを目指し、新しい年を元
気で、楽しく頑張りたいもの
です。

終わりに会員の皆様のご健勝

と幸多い年でありますようお祈
り申し上げて、新年のご挨拶と
いたします。

事務局長 佐藤 保



明けましておめでと
うございます。

皆様には、お健やかに佳き新
年をお迎えになられたことを心
からお慶び申し上げます。

新春とともに発刊される会報
「シルバー日向岬」を皆様方の
手元にお届けすることができた
ことは二重の慶びであります。

さて、本センターが高齢化社
会のなかで、高齢者の生きがい
の充実と社会参加の推進を目的
に、平成元年四月に発足した、
社団法人日向市シルバー人材セ
ンターは早くも六年目を迎える
ことができました。

これも偏に、会員皆様のご努
力を始め、国、県、市、関係各
位のご指導、ご援助、又地域社
会のご協力の賜ものと深く感謝

申し上げます。

ときに、本市にとりまして、
設立以来年毎に極めて堅調な伸
展をおさめております。

このことは、本センターが地
域社会の高い評価と信頼を得て
着実に浸透いたしているもので、
会員一人ひとりが「自主、自立、
共働、共助」の基本理念のもと
に真面目に仕事に取り組んだ表
れだと確信しております。

今日、日本の国は、世界一の
長寿国となり、人口の高齢化も、
いまだかつてない世界に例をみ
ない早さで進行しているところ
であります。

急速に進む高齢化、更には国
際化、高度情報化の進展などに
より、私達を取り巻く環境は大
きく変化し市民の要望は、多様
化、高度化しております。

特に人生八〇年代といわれる
長寿社会を迎え、生活の質的向
上や心の豊かさ、生きがいのあ
る人生を求める市民の声は一段
と高まってきております。

そこで、初心にかえり改めて
の役割、分担が果たせるように
努力と情熱を注いでまいり、本
事業の普及、啓発とともに、家
庭、社会の人びとから、愛され、



信頼されることともに地域社会の活性化につとめてまいります。高齢化の健康保持には、先づ働こうと云う積極的な気持ちになつて身体を動かし、新しい人間関係を作ることに、昔から快食、快眠、快便が健康の基とされていりますが、核家族化の現状を考えますと、家庭に留まるのは孤独になりがちですから更に快歩、快談、快笑と戸外に出掛けて同世代の友人を作つて、仕事や会合の場を作り談笑することが大切ではないでしょうか。

シルバー人材センターの仕事に参加されるのはこのような機会を作る絶好の場になると思ひます。

最後に会員並び関係者の方々のご健勝とご多幸をお祈り新年のあいさつといたします。

会員研修旅行 (日帰コース・一泊旅行)

今年度より、会員の副利厚生事業の充実を図るため、専門的な委員会が発足することが、平成5年4月14日開催の班長、副班長合同会議で決定しました。この委員会は、会員がセンターで働くだけでなく、会員相互の親睦を図ることを主な目的としています。委員のメンバーは以下の3名の方です。

財光寺B地域副班長

井上 繁さん

財光寺E地域副班長

佐藤ミトモさん

(班長)

岩切 秋子さん(代理)

日知屋枝郷A地域班長

寺原 茂英さん

この3名の実行委員会で検討した結果、今年度は会員旅行については以前から要望があった一泊旅行と(霧島温泉)と、従来の日帰り旅行(石崎浜荘)の二つを実施することとなりました。

佐土原石崎浜荘の

研修旅行

財光寺D地域班

西 島 暎之助



七月十三日シルバー主催の親睦慰安旅行に参加した。目的地は宮崎港と佐土原町営の温泉石崎浜荘とのことで名稱だけでも誇りに?思ったのである。いずれの地も初めていく場所であり気はずませ、センター用意のバスに乗車した。車は三台で地域毎の割当ではあるが、初めて会わず顔々会員のみんなはまるで借り猫でもしているような物静かな旅立ちである。

勿論ガイドさんがいるわけでもない、一時間一寸で宮崎港での小休憩になった。他の車に乗った知人によると、何号車は出発から港につくまで「まあ賑やかな笑い笑顔で」あつという間についた楽しい旅行だぞと非常に喜んでいた。

昼前に石崎浜荘に着く、一寸のどが渴いてきたので若干軽い

アルコールを口にしたら、昼頃のせいかわアルコールの回りが早く、昼食を兼ねてのカラオケが始まり酔った気分が飛入りを願った。出る会員はみんな上手だ。拍手がやまない、とうとうお湯につかるのも忘れて拍手だけ手の平が少し赤くなっていた。

帰りはうとうとうとしているうちに日向に着く、あつという間の旅行だった。次の一泊旅行を、もつと楽しみたいと感じた。

財光寺D地域班長

森 岡 健 二



シルバー人材センターの基本理念の理解及び会員意識の高揚と相互の連携、親睦を図るため七月二十日、二十一日、一泊二日の日程で、霧島温泉へ総員七十三名で行きました。午前九時、センター事務局前を出発し三台の車で南進、霧島民芸村で昼食をとり、まほろばの里にいたのは午後の三時過ぎでした。草スキーや、陶芸品の製作工

程を見学いたしました。二十日の夜は霧島観光ホテルで、ゆつくり温泉につかりつづいて宴会では「カラオケ」「舞踊」と出演者多数、芸達者の多いのにおどろきました。本当に楽しいひとときをすごしました。

二十一日は午前九時にホテルを出発し、「高千穂牧場」を見学しました。広大な自然の中で、とても清潔に飼育されているちち牛を見せてもらい、とりたての牛乳製品など土産を買いました。帰路小林市の陰陽岩を見学して昼食、「とてもおいしかった」午後四時頃日向市につきました。多忙にまぎれて日頃なかなか逢えない会員と研修旅行を通じて親睦を深めました。

この福利厚生旅行を計画された実行委員ならびにセンター事務局職員の皆さん、参加された会員の皆さん有難うございました。紙上をかりまして厚くお礼を申し上げます。



会員研修旅行アルバム



◀ 焼酎がうまい!!



◀ そろそろ温泉に入ろうか



◀ 記念にハイポーズ(御池)



◀ バンザイ!



◀ あっそれ、それ美々津音頭



◀ 次は、どこいくと

10 / 1 御鉾ヶ浦一帯の奉仕作業

十月一日に、清掃作業を、会員二百五十名で午前九時より開始。作業内容は、草刈、除草、剪定、海岸の流木、並に塵集めでした。作業開始の合図と共に、それぞれ分担された場所での作業。今まで静かだった公園も、一斉に騒音に包まれる。草刈機の音、木を切る音、見るみる中にきれいになる。うっ蒼たる藪もなくなり公園内が明るくなってくる。休憩時間には腰をおろし、広大な太平洋を眺めて一ぶく。波は静かで水平線までくっきりと見える。本当にのどかな天好でした。約三時間の作業で、見違えるほどきれいになりました。共働共助の気持で汗を流し、充実感を味わうことができました。終了後地域班毎に弁当を食べながら、会員相互の交流を深める一時でした。会員のパワーがこ

のように発揮されることは、大へん有意義なことだと思えました。



▲怪我に注意して作業するように！安全第一



▲作業が終ってニッコリ



▲さすが真剣そのもの

10月20日

老人クラブ運動会で
会員募集

10月20日、大王谷運動公園で日向市老人スポーツ大会が行われました。当センターでは、「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」の行事の一環として同会場でセンターの案内を盛り込んだパンフレットを配布。また、女性会員の代表2名（岩切秋子さん、佐藤ミトモさん）が、約三〇〇杯の甘酒をふるまい大好評を得ました。



▲ウ～ンおいしい!!

安全標語・川柳の入選作品決まる!!

最優秀賞

— 安全標語の部 —

「一に点検、二に確認、
幸せ集うシルバーの輪」



那須節子

— 川柳の部 —

「怪我すれば孫が悲しむ
身も痛む」



矢北正美



安全管理委員長
高橋彰一郎

最近号の「月刊シルバー人材センター」の表紙をめくると、全国の仲間の入選標語が目につきます。しかし今回の日向SCの安全標語・川柳の入選作はその作品に勝るとも劣らないすばらしいものでした。

はじめの募集に百四十点の応募があり、初心者と思えない秀作ぞろいに先づびつくり、そして選考に入り「思わずクスッ!と笑いをさそう作品」あり「思い当たる表現にうなずいたり」で選考委員も大苦戦でした。7点の入選作品を選ぶのに無記名投票・決戦投票を繰り返して、選ばれた作品はいずれも秀作。しかし選に洩れた作品にも捨てがたい秀作ぞろいで、誠に申し訳なく思いました。

来年も続けたいと思いますので、今回の作品を上廻る腕をみがいて、挑戦して下さい。入選された方、おめでとうござります! 「安全だより」でも発表しましたが、この一年間「日向市シルバー人材センターの安全標語・川柳」として、会員の皆様の「安全就業」と「安全意識向上」のPRに使わせていただきます。御協力ありがとうございました。尚版權は、日向市シルバー人材センターにいただきますので、御了解下さい。

安全標語とは「安全」を短い言葉でわかりやすく、宣伝性があり、モットーとかスローガンのなもの、「私の座右の銘」みたいなもので、なるほどと思われる印象に残る作品です。

安全川柳とは「安全」を風刺のきいた短い言葉で、クスッと笑いをさそうもの、遠廻しに批判したもの、ちよつとあてこすり味のあるもの等印象に残る作品を選びました。

▼作業場の環境よし! (南海旭)



▲技能の高い仕事で感心する! (宮崎絨氈)

12/8 第4回安全パトロールを実施しました。
今回は、12月8日、安全管理委員と事務局のメンバーで屋内作業の宮崎絨氈株式会社と南海旭株式会社に行きました。パトロール前の打合わせで、責任者の説明を聞き、作業場内の巡視をしました。

会員のひろば

交流研修会に

参加して

財光寺E地域班長

岩 切 秋 子



十一月十九日西都市で、西都佐土原広域シルバー、延岡シルバー、日向シルバーの三地域交流会に参加させて頂きました。

男性、女性と別々の研修になりました。

延岡の方達の活発な意見には感心致しました。年齢も五十五才、七十八才の方で、長い方は七年家事手伝掃除、除草等で感謝され、喜ばれる事が何よりも嬉しく毎日楽しく仕事をさせて頂けるのも、シルバー人材センターと云う組織があればこそと感謝なさっておられました。

会員募集には口こみ、

団体、市報、夕刊等で、チラシは会員に配付しておくとの事でした。

西都の方も家事手伝、病院の掃除花づくり等、その日で仕事が違うとの事でした。やはり感謝され働く喜びでした。

日向は黒木ウメ子さんが都農農産加工工場で、毎日元気で働ける喜びを話されました。

最後に西都市の黒木末子さん。日本生命に二十年勤務退職なさって、色々勉強され看護の免許等取得され、シルバーに入会されて、仕事に就かれいろいろ活用出来る喜びを強く話されました。そして、「二十一世紀は女性が羽ばたく時代である。」

シルバーで一致団結すれば何でも出来る。シルバー人材センターで、働かせて頂ける喜びと感謝、又働く者も発注者になつたつもりで真心こめて働かせて頂いていると云われ、健康に留意し地域社会の為に役立ち、働き甲斐があると話されました。「共働」「共助」を、モットーにシルバー人材センターの発展をお祈りしたいと思えます。

県シ協設立五周年

記念祭に参加して

財光寺D地域班

那 須 フジミ



去る六月二十三日宮崎厚生年金会館で行われた、県シ協設立五周年記念祭に参加しました。先づ開会式があり、県知事代理人と県議会副議長の挨拶がありました。

そのあと国民金融金庫に三十年おつとめの田辺好子さんの「高齢化社会を迎えるにあたって」という題目で講演がありました。いままでとこれからと云う内容でした。先づ輝きながら心の準備という事で生き甲斐を見つけ、ある程度の経済力があればお互い仲間づくりに心掛け、日頃から自分の役割を考え、高齢化社会に立ち向うようにといった話でその中に自分の家族のことなど入れて、あきのこない話でした。

昼食後はアトラクションがありいろいろな面白い芸が出ました。

とてもシルバーとは思えない、若者顔負けの芸もいくつか出ました。これもいつまでもふけこまない秘訣でもあり有意義な一日でした。

私の回想録

日知屋枝郷A地域班

落 合 誠



約二年位前からと思うが、事務局の兵頭さんから、落合さん、何か貴方の想い出でもよいし、又シルバーの仕事の事でもよいから、一筆書いて下さいとの要請が、年末になると必ず言ってくるが！

人間人から何か言ってくれと云われると、一寸考えさせられる。特に戦争中に育った自分達は、勉強どころか毎日のように奉仕作業でした。土掘道具、トンガを持って財光寺旧飛行場の、芝張り作業とか、防空壕掘り奉仕の仕事に借り出された。今思うと勉強と言う勉強は出来なかつたような気がする。

一寸色々な用事で字を書けば宛字が多くて、家内に字がちがうと注意されようし。自分は正しい字と思っているが困ったものだ。だから少しでも暇を見ては、新聞を見て、難しい字とか、誤字になるような字を少しでも覚えようと思つて、新聞、雑誌を開いて見るが、此の年になるとすぐ忘れる困ったものだ。特に、夕食前に自分の好きな、晩酌を飲んだ後の新聞の字はだめだ。昼の間は貧乏性のせいか天気が良いと、家にじっとしてられない。戸外のいろいろな仕事が目について、つい手を出してしまう。雨の日は、二才になったばかりの孫の相手で、一日があつと言う間に過ぎるが、日常の話は、これくらいにして、昔をふり返つて想い出せば、青春時代の希望だった、兵隊飛行機乗りも終戦で夢破れて果せず。時の流れに乗じて会社生活にはいり、約三十七年間務めた。定年を迎えて後の人生は自分の好きな事をして、一生を送ろうと思つていたが、老けこむのはまだ若いし体は健康そのもの。だから何か自分の趣味に合った仕事はないかと思つていたところ

に、シルバーセンターの話しを或る人から聞いて、すぐ入会し現在会員の仲間と植木剪定の仕事を時々している。これも体が健康であるから出来ると思う。その上と同じ仕事仲間の人達が、良い人ばかりで楽しく働けています。

(私の信条)

- ・ 仕事をする時は上機嫌とする。
- ・ 人から喜ばれる仕事をする。
- ・ 仕事をする時は自信をもってする。

最後に、シルバーセンターの局長さんをはじめ事務局の職員の方々皆親切でありますので、働きがいのある所と私は思っています。今後共よろしくお願い致します。

尚本年も残り少なくなつてまいりましたが、くれぐれも体に注意してよい年を迎えられるように。シルバーセンターの益々の発展と、会員皆さんの御健康を蔭ながら祈念して筆を置きます。



今年の抱負

新町・塩見地域班

黒木逸代



シルバーの皆様、あけましておめでとございます。新しい年をおすこやかに、お迎えされた事をお慶び申し上げます。

「熟年―熟女」と云う実感がようやくわいて来たと言うのに早や「還暦」と云う年令になりました。今更の様に月日のたつ早さにおどろきます。

見知らぬ土地、話し相手もない土地(南郷村)での結婚、そして育児、教育、又日向市への転居と、目まぐるしく過ぎ去つた三十数年でしたが、いつのまにか、年老いて、「おばあちゃん」と二人の孫から呼ばれる様になつて今更の様に「なんでも話し合える友人が欲しい」と考える毎日でした。

ある時知合いの方から「シルバーセンターに登録して頂いたら? そうすると、多くの話し相

手が出来るかもよ」

早速、登録して頂きましたのが一昨年の事でした。そして昨年からの就業させて頂いた日数もまだ僅かですが、その間に多くの「お友達」も出来ました。又得た収入はすべて孫達のお小遣いに消えてしまいましたが、「おばあちゃんありがとう」の一言が何よりもうれしく腰の痛さもふつとんでしまいます。

年一回の奉仕作業は新しい友との社交場」と思つて参加させて頂きました。「今年の抱負」が後になりましたが「年女」としての自覚のもとに、シルバーの積極的参加により、なんでも話し合える友を一人でも多く作る為、又視野を広げ、今後の人生を楽しく過すために、健康に留意して、センターからの連絡に即応出来る様毎日を送りたいと思う昨今です。

どうぞこんな私を今後とも末永くおつき合ひさせて下さいませ。



ソフトボール始末報告

日知屋枝郷A地域班長

寺原茂英



天候不順八・九月雨々雨に明け暮れた。漸く十月に入ると、秋らしい晴天が続き、一日ソフトボールを、塩見の元小学校跡のグラウンドでやることになった。秋晴れの空の下白球を追う予想をしていたが、なんと前日から雨が降り出し十月二十九日当日は豪雨となって、グラウンドは池のようになってしまった。そこで事務局は近くの公民館での懇談会へ変更した。三々伍々集って来た人達、日頃滅多に会えない人もいる。あちらこちらで賑やかな会話が始まる。座がほぐれて笑いがおきる。折角のソフトボールが出来なくて、内心沈んだ気持ちも少しづつ晴れてくる。シルバーの仲間と欲談する事でいろいろな日頃の苦労や喜びが伝ってくる。副理事長のねぎらいの挨拶が終り事務局の司会が進んで行く。自己紹介の段

になると仲間のいまの仕事に対する反省や仕事への意欲、意見などが語られる。耳を傾けて聞きながら感動したり、共感したり。仕事に取り組む、その人の意気込みが伝ってくる。皆の笑顔を見ながら元気でこの席にいられることを、私は大変有り難いことだと思ふ。会は大変有り難いことだと思ふ。歌は進んで歌がでてくる。年季の入った、味のある歌いかたで聞かせる。かくて、楽しい半日は終わった次第である。

ひまわりふれあい ボート事業就労について

日知屋枝郷B地域班

甲斐雪男



私は平成四年三月三十一日付で公務員(延岡検査審査会事務局事務局長)を最後に定年退職してから、一年間を我が家ですごしていました。日向市のシルバー人材センター

で働いてみませんか。健康で働く意欲のある高齢者の新しい就業システムです。働くよろこび社会参加というキャッチフレーズに参加するため、日向市シルバー人材センターに登録したのが、今年の四月でした。そうして、早速の仕事が「ひまわりふれあいボート事業」として監視員の仕事でした。就業期間平成五年五月二日より十月三十一日として、貸ボート利用時間を(土)(日)(祝日)、就業時間午前十時〜十八時三十分まで、実働八時間ということに就労することになったのです。この事業は、日向市民のふれあいボートとして楽しい憩いの場として、またコミュニケーションとしての役割を果たす目的をもって行う仕事です。今年例年になく冷夏そして、大雨、台風九号、十三号の襲来でボートの引揚げ作業、ボートの中に溜る水のくみ出し作業をボート部員九人での仕事では、一番の苦労で辛い作業でした。今年はこの仕事が多く皆さんも大変でした。今年も塩見川の川面にさざ波が立って秋の深まりを感じる頃、

私たちがボート部員の仕事も終了するので。ほんとうにボート部員の皆さん御苦勞様でした。最後に、日向市シルバー人材センターの事務局長さん、職員の皆さんには大変お世話になりました。日向市シルバー人材センターの益々の発展と会員、部員の御健康を祈念して、今後の活躍を期待したいと思います。

発注者の声

シルバーさんに
感謝を込めて

廣木真理子



我家は七人家族。私達夫婦と五人の子供たち。第五子は、間もなく生後二ヵ月になろうとしています。今までも一生懸命日々の生活を努力して過越して来ましたが、第五子の出産を前にして私達は助け手が必要となりました。そこで尋ねたのがシルバー

人材センターでした。週二回午前中、我家には子供がたくさんいるので、子供が好きでいてくれて、部屋のおそうじと洗い物などをしてくださる方を希望しました。この時期はもうどんな方が来てくださってもかまわない、とにかく助けが欲しいと初めて感じた時でもありません。そして、来てくださることになった方は本当にすばらしい方でした。まず、とても素敵でおきれいな方でした。いざ仕事に入ると本当にてきばきと片付けていかれました。まぶしいくらいお天気のよい日にお茶碗は外に日光浴で置いてある時などは、本当に先輩の知恵と模範に感心したりします。また何よりも日々の生活に疲れていた私たちを手伝ってくださる方の存在は大きなものがありました。特に私にとっては助けていただいていると言ったような思いでした。「おはようございます。」「ちらかしっぱなしですみません。」「いいですよ、いいですよ。」「やさしい声で言ってくださいます。どうぞよろしくお願いたします。私たちが、今を一生懸命生活してきます。少し余裕が出来て来たら

趣味の紹介

短歌と私

日知屋本郷B地域班

長 渡 栄 子



きつとよい行いでお返しが出来そうです。今日は勤労感謝の日。どうぞお好きな民謡のおけいこにも励まれていつまでもいきいきと……。素敵なままで。廣木家族より感謝を込めて。

あるとき「訥訥ながら無駄のない挨拶」を聞いたのです。心をひきつけられながらこれは何だろう何故なのだろうと思いました。その人が「俳句」をしていることを知りました。自分もあの様な挨拶が出来る様になりたいと思ひ、私は短歌を選んで勉強してみることにしたので

S49年のはじめの作は
・朝顔にからまり咲ける朝顔を
切り振りあて子にみつめらるる
次に
・容赦なき批評の中にくくみた

る教えを解きて今朝は落つく
があります。こてんこてんにく
さされて泣いて帰ったときのも
のです。この様なことをくり
返ししながら途中でやめなかつた
事を今は良かったと思つていま
す。作歌することですべての人・
物・事・自然に心を寄せ正確に
見るくせがついているのではな
いかと思うからです。
今は日記がわりに歌を作つてい
ます（はじめの挨拶が上手になつ
たかについてはなかなか？）
最近作

・汚れたる長靴を脱ぐ足もとに
木屑こぼれて山の匂ひす
・山仕事に少しは慣れておみな
えしの花数本を手折りてくださる
以上書かせて戴きましたこと
を心から感謝申し上げます。
追伸
（市内にいさり火短歌会があり
ます。くわしく知りたい方は会
長黒木一男氏 電話五七一一七
三二まで）



標語・短歌・俳句

平岩地域班長

田 村 広 繁



「標語」

初心忘れず、笑顔で、社会貢
献。
毎日通る道、互いに交わす、
安全確認。

「短歌」

住む家は、きれいなれど、
世の中の、人の心は、汚くなりぬ。
年老いて、新しき友の、おく
りもの、心に残る、感謝の気持。
悠々の、暮しに馴れて、薄れ
ゆく、苦楽の月日、思いつつ生
く。

「俳句」

天辺に、雲留りぬ、墓地の秋。
新涼の、みなは灯さず、弥徹
の燭。
巢をあるく、蜂のあしおと、
秋の昼。



いぬ年

とし男・とし女
明治四十三年、大正十一年、昭和九年生まれの皆さんは、今年はとし男、とし女。ひと言ずつ今年の抱負をうかがいました。中には、「無我夢中で働いてきたから年を取るのを忘れてた」という会員さんもいらっしやいました。

●新町・塩見地域班



黒木 逸代
これから健康で働き続けていきたい。



御手洗 スミ子
今年もシルバー人材センターで楽しく頑張ります。

●富高B地域班



鹿島 スイ子
友達も出来たし、もう少し頑張ります。



長曾我部ユリエ
今年も会員と皆さんと一緒に元気で働いていきたい。



松本 道雄
70、80は花盛り、これからも皆様方と仲よく頑張っていきたいと思えます。役員方にも、いろいろとお世話になります。



財光寺A地域班
堀田 ミハル
健康で楽しく仕事がしたい。



財光寺C地域班
今村 奈良人
今年もシルバーで頑張ります。



治田 久子
心身共に健康で働き、いつまでも若々しく有りたい。



緒方 末男
自己の体力と能力増進の為ますます元気で頑張ります。



日知屋枝郷A地域班
佐藤 アキエ
今年も頑張ります。



藤本 正一
足、腰を直して元気で働きたいと思う。



成合 初夫
本年は、健康に留意して心機一転頑張ります。

●日知屋枝郷B地域班



山崎 宮子
仕事がいやだなと思ったりは、一度もない。今年も楽しく働きたい。



●細島地域班
本宮 マサノ
元気になったから仕事に頑張りたい。



●幸脇・美々津地域班
黒木 ミドリ
仕事を生甲斐に頑張ります。



村田 ハナヨ
健康でみんなと仲よく働きたい。



黒木 ヒメ
新しく入会しました。皆さんどうぞよろしくお願ひします。

本年が皆さんにとって今まで以上に充実した良いお年でありますようにお祈り申し上げます。



事務局だより

●新入職員紹介



長曾我部 カズ子

十月より業務の仕事を手伝わせて頂いています。

まだ不慣れで職員、会員の皆様に御迷惑をお掛けしていると思いますがよろしくお願い致します。



安全就業推進員
藤田 辰巳

平成五年十月十二日付で安全就業推進員を拝命いたしました。これから私の任務として会員の皆さんと一緒に事故防止に努め、怪我等しないよう、毎日を楽しみ働きましょう。

★会員募集

当シルバー人材センターでは、常時、会員を募集しております。

日向市内に居住される、おおむね六十歳以上で健康で働く意欲のある方でしたら、どなたでも会員になれます。

特に剪定、大工、左官等技能を有する方の加入を歓迎いたします。友達やお知り合いの方をご紹介下さい。

★就業についてのお願い

●就業される場合は、必ず事務局で作業日報を受け取ってから仕事に就いてください。

●作業日報の作業時間等の欄は、必ず発注者に記入してもらい、サインか確認印を受けて下さい。

●作業日報の提出について
単発日報は作業終了後、早目に継続日報は、翌月三日までにそれぞれ事務局に提出して下さい。作業日報の提出が遅れますと配分金の支払いが一ヶ月以上遅れることになり、事務管理に支障をきたします。御協力下さい。

事務局職員紹介



業務係長 兵頭 幸一 庶務担当 前田 和久 業務担当 江藤 日出夫 安全就業推進員 藤田 辰巳
臨時職員 長曾我部カズ子 事務局長 佐藤 保 業務担当 佐藤 暢子

▼会員逝去のお知らせ

次の方々が
故人とられました。

島田 勝 義様(68才)

財光寺E地域班

平成五年九月三日

河埜 鎮 子様(68才)

財光寺B地域班

平成五年十一月十六日

心よりお悔やみ申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

シルバー日向岬、第六号の発行にあたり、会員の皆さんより原稿を提出いただき感謝申し上げます。

今年はいぬ年です。お互いに健康第一で良い年になりましょう。

平成六年度には婦人部「ひまわり会」が発足します。ますます充実したセンター作りを期待すると共に、私達の会報作成に今後一層のご支援とご協力をお願い致します。

編集委員

森岡 健二・治田 恵

椎葉ハツノ

事務局職員

佐藤 保・兵頭 幸一

佐藤 暢子

